



森を育て、森を活かす。

未来を育む使命—イノベーションを続け150年

2023年2月12日、創業から150年を迎えた、王子ホールディングス。森、水、紙の三つのリサイクルを軸とした、資源循環型ビジネスを通してサステナブルな社会の実現を目指していく。王子グループが次の150年に向けて飛躍し、社会のニーズに添っていくために必要なイノベーション、そして「パーパス(存在意義)」とは—。モデルでタレントのトラウデン直美さんをフアンシテーターに迎え、磯野裕之代表取締役社長とコモンス投信株式会社取締役会長の洪澤健さんが150周年記念特別対談で語り合った。



王子ホールディングス株式会社 代表取締役社長 グループCEO 磯野裕之 × モデル/タレント トラウデン直美 × コモンス投信株式会社取締役会長 洪澤健

150年刻々育ってきた社会へのインパクトとイノベーション
—王子HDの起源となる「抄紙会社」は、洪澤栄一さんが作られた会社の二つと開きました。洪澤さんと王子HDの関係性について教えてください。

は、日本の文化の発展のためには、書物や新聞をもっと世に出すべきだと考え、その実現のために、洋紙を国産化する必要があるとして事業を立ち上げました。操業開始時には、機械は動いても思うような紙が出来上がらず、損失も膨らんでいったようです。しかし、洪澤は、「この事業が挫折するようなことがあれば、日本の工業の発達に大打撃を与えるだろう」と考え、「どうしてもやり遂げたい」という決

意で成功に導きました。その思いの先に今の王子グループがあります。やり遂げることの大切さを、今後の事業展開にも活かしていきたいかなければなりません。
洪澤 日本は長く鎖国していたこともあり、西洋の工業や文化の発達から取り残されてしまいましたが、海外経験を通して、「なぜ、外国にあるものが日本にはないのだから、あの国にきて日本にはできないのはなぜだろう」という問いと不満を持つていたのでした。愛国心が強く、日本をもっと良くしたい、国力を上げたい、それを民間から実践したい、という大きなモチベーションを持って、様々なことをやり遂げた一人なのだと思っています。

磯野 グループとしてどのように社会と関わり、貢献できるかを考えました。王子グループの事業の核は「森林」であり、森林資源に根付いた経営を進めることが使命です。そのことを明文化したものが、「森林を健全に育て、その森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けること」で、希望あふれる地球の未来の実現に向け、時代を動かしていくというパーパスです。

洪澤 会社のパーパスと、従業員一人ひとりが持つパーパスが100%合致するのは無理なことだと思えます。個人のパーパスは与えられるものではありませんし、それぞれ異なります。だからこそ、会社のパーパスと、自分が大切にしていること、どこが重なりそうか、どのあたりが同じ方向を向いているのかを、一人ひとりが確認する必要があるのではないのでしょうか。

磯野 パーパスに込めた使命を、国内外にいる3万人の全従業員と共有したいという思いです。王子グループでは、「木を使うものは木を植える義務がある」という理念のもと、1930年代から森林の育成に取り組み、90年代以降は海外でも本格的に植林事業を開始しました。当初の目的は、原料の安定確保でしたが、近年は、水源涵養や、酸化炭素の吸収固定、生物多様性の保全など様々な公益的機能にも注目が集まっています。さらに、森林から得られる木質資源から、バイオマスプラスチックやセルロースナノファイバー、医薬品など、新素材の開発も進めています。創業時から培ってきた多様な技術で、これからの社会に貢献できるようなイノベーションを続けていきたいと考えています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

「森林を健全に育て、その森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けること」で、希望あふれる地球の未来の実現に向け、時代を動かしていくというパーパスです。

磯野 パーパスに込めた使命を、国内外にいる3万人の全従業員と共有したいという思いです。王子グループでは、「木を使うものは木を植える義務がある」という理念のもと、1930年代から森林の育成に取り組み、90年代以降は海外でも本格的に植林事業を開始しました。当初の目的は、原料の安定確保でしたが、近年は、水源涵養や、酸化炭素の吸収固定、生物多様性の保全など様々な公益的機能にも注目が集まっています。さらに、森林から得られる木質資源から、バイオマスプラスチックやセルロースナノファイバー、医薬品など、新素材の開発も進めています。創業時から培ってきた多様な技術で、これからの社会に貢献できるようなイノベーションを続けていきたいと考えています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子の森 57.3万ヘクタール
王子グループは、国内外に57.3万ha(東京都の約2.5倍)もの広大な森林を保有・管理しています。その内訳は、環境に配慮しつつ、木材生産を主目的とした生産林が43.2万ha、生物多様性や流域保全を主目的とした環境保全林が14.1万haです。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

温室効果ガス(GHG) 「環境ビジョン2050」で2030年度までに18年度対比で70%削減 2050年度までにネットゼロ
王子グループは、2020年9月、「ネット・ゼロ・カーボン」を中核とする「環境ビジョン2050」を策定。気候変動問題について、まず2030年までに、GHG排出量を18年度対比で70%削減する目標を設定し、森林によるCO2純吸収量拡大、石炭使用量削減などによるGHG排出量削減の取り組みを進めています。

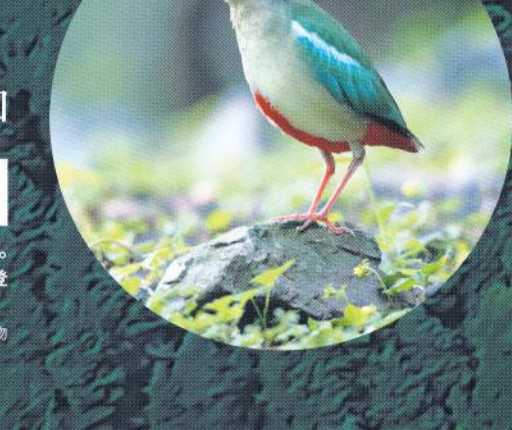
王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

生物多様性 のための 30by30アライアンスへの参加
王子グループは、2016年より公益社団法人生態系トラスト協会と協働で、ヤイロチョウ(環境省レッドリスト「絶滅危惧IB類」)の生育環境を保護しています。ヤイロチョウが生息する本屋ヶ内社有林(高知県)のOECM登録を目指し、生物多様性の保全活動に取り組んでいます。 ※OECM:国立公園等の保護地域以外で、企業林や里地里山などの生物多様性保全に貢献する場所



王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。

王子が目指すグリーンイノベーション
近年の脱プラスチック化の潮流の中で、再生可能な木質資源への期待が高まっています。王子グループは、創業当時から紙づくりや森づくりで培ってきた多様なノウハウをベースに、以下の三つのテーマを中核に、サステナブルな社会の実現に貢献するイノベーションを推進しています。